

大学院生プロジェクト型研究・研究成果報告書

研究代表者：米田 佑（教育政策科学コース）

| | |
|--|--|
| ■ 研究題目 | |
| 母親のパーソナルネットワークと教育投資 —教育達成の階層差研究とパーソナルネットワーク研究の統合の試み— | |
| ■ 研究代表者・分担者 氏名 | |
| 米田 佑（教育政策科学コース）（代表者） | |
| ■ 研究成果概要（目的、実施内容、結果、今後の課題など） | |
| <p>1. 目的</p> <p>本研究の目的は、母親の有するパーソナルネットワークが彼女らの学校外教育投資に対して影響を与えるのか、与えたとすればなぜなのかを分析することである。</p> <p>これまで、親の学歴や収入といった階層的要因が学校外教育投資に対して影響を与えることは度々分析されてきた。一方で、「ママ友」という言葉にも象徴されるように、母親は周囲の他者との関係の中で子供の育児や教育を行っている。従って、学校外教育投資に対しても、母親が保有する周囲の他者とのパーソナルネットワークが独自に影響を与えている可能性がある。</p> <p>2. 実践内容</p> <p>以上を踏まえて、本研究では「モノグラフ小学生ナウ いまどきのお母さん—母親たちのコミュニケーション事情—」と「2005年 社会階層と社会移動全国調査」の2つの既存のデータを用いて、母親のパーソナルネットワークと学校外教育投資との関連を分析した。その結果、階層的要因を考慮しても、パーソナルネットワークに関する一部の変数が学校外教育投資と有意に関連していた。</p> <p>またその後、独自にインターネット調査を行うことで、なぜ両者に関連が確認されたのかを調査した。なお、調査の概要は以下の通りである。</p> | |
| 調査対象 | 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に住む何らかの習い事を行う 3歳から6歳の保育園・幼稚園に通う子供（長子）を持つ20歳 から39歳の母親（株式会社マクロミルのモニター） |

| | |
|--------|--------------------------|
| 調査時期 | 2018年11月13日から2018年11月14日 |
| サンプル数 | 309 |
| 調査協力機関 | 株式会社マクロミル |

3. 結果と考察

既に言及したように、まず既存のデータを用いた二次分析を行なった。その結果、いくつかのパーソナルネットワークに関する変数が、階層的要因を考慮した上でも学校外教育投資と有意に関連していた。すなわち、階層的要因には還元されない学校外教育投資に対する独自のパーソナルネットワークの影響の存在が示唆されたと言える。

次に、なぜ上記の関連が見られるのかを独自にインターネット調査を行うことで明らかにすることを試みた。その結果、調査対象となった者のうち、半数近くの母親（45.6%）が少なくとも1つ以上の習い事を「友人からの紹介」「近所の人からの紹介」「知人からの紹介」のいずれかを通して見つけていたことが明らかとなった。これは「新聞、チラシ、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットなどのメディアを通して」少なくとも1つ以上の習い事を見つけていた者、すなわち何らかのメディアを通して少なくとも1つ以上の習い事を見つけていた者（44%）、「夫からの紹介」「両親からの紹介」「きょうだいからの紹介」「親戚からの紹介」から少なくとも1つ以上の習い事を見つけていた者、すなわち家族や親戚を通して少なくとも1つ以上の習い事を見つけていた者（11.7%）、「お子さんからの紹介」から少なくとも1つ以上の習い事を見つけていた者（3.6%）、「その他」の経路から少なくとも1つ以上の習い事を見つけていた者（25.9%）の割合と比べても最も高い結果であった。

以上の結果は、学校外教育投資先を見つける上で周囲の他者から得られる情報が重要である可能性を示唆している。

この独自調査の結果および上記の二次分析の結果から、母親が有するパーソナルネットワークが学校外教育投資に関する情報を母親にもたらし、そのことで母親の学校外教育投資が促進されていると考えることができる。

転職過程において他者とのつながりから得られる情報が重要であるかどうかという議論は Granovetter（1973, 1974[1995]=1998）を契機として多くなされてきた。本研究から、学校外教育投資を行う母親に対しても、周囲の他者とのパーソナルネットワークから得られる情報が重要な要因である可能性が示唆された。

また、学校外教育投資は教育達成の階層差を説明する上で重要な側面でもある。実際、所得が高い親の子供ほど多くの学校外教育投資を受け、多くの学校外教育投資を受けた者ほど学力が高くなるという議論は「学校外教育投資仮説（盛山 1981）」と呼ばれる。よって本研究は、学校外教育投資を題材として、教育達成の階層差研究にパーソナルネットワーク研究の一部の知見を応用した研究であるとも言える。

4. 今後の課題

今後の課題としては3点挙げられる。

1点目は、独自調査で収集したデータを用いてより詳細な分析を行うことである。Granovetter (1973, 1974[1995]=1998) は、パーソナルネットワークが転職において重要であることだけではなく、弱いネットワークを利用している者の方が強いネットワークを利用している者よりもより良い情報を得ると議論した。これは「弱い紐帯の強さ」仮説とされている。本調査でも、ネットワークの強弱の指標となる「顔を合わせて会う頻度」が尋ねられている。今後は、そのような質問を用いてより詳細に分析する必要があるだろう。

2点目は、パーソナルネットワークの指標についてである。二次分析においては、メールのやりとりや、団体への所属といった指標を人々が持つパーソナルネットワークの指標として用いた。ただし、人々が保有するパーソナルネットワークをどのように測定するのには様々あり、多角的に検討される必要がある。その測定方法によっては異なる結果が得られる可能性もある。

3点目は、パーソナルネットワークと学校外教育投資が関連するメカニズムを説明する上で、情報以外の異なる側面にも着目する必要がある点である。例えば荒牧(2018)が指摘するように、周囲の他者の高学歴志向は母親本人の高学歴志向にも影響を与え得る。よって、パーソナルネットワークと学校外教育投資が有意に関連を持っていたという分析結果の背後には、情報だけではなく、荒牧(2018)が指摘するようなメカニズムが存在する可能性もある。今後はより詳細な分析が必要であろう。

参考文献

- 荒牧草平, 2018, 「母親の高学歴志向の形成におけるパーソナルネットワークの影響: 家族内外のネットワークに着目して」『家族社会学研究』30.1: 85-97.
- Granovetter, M., 1973, "The Strength of Weak Ties", *American Journal of Sociology*, 78.6.: 1360-1380.
- , 1974[1995], *Getting a Job: A Study of Contacts and Careers*, University of Chicago Press (=1998, 渡辺深訳『転職—ネットワークとキャリアの研究』ミネルヴァ書房) .
- 盛山和夫, 1981, 「学校外教育投資の効果に関する一考察」『北海道大学文学部紀要』30.1: 171-221.